

# ドイツの英語教科書に見られる コミュニケーション・アプローチの実践 (その3)

長谷川 恵 洋

本稿は「ドイツの英語教科書に見られるコミュニケーション・アプローチの実践 (その1)」(『阪南論集 人文・自然科学編』第28巻第4号, 1993年), 「同 (その2)」(『阪南論集 人文・自然科学編』第29巻第3号, 1994年) に続く。全体の目次を再度しめす。本稿に記載するのは, 下記の目次の中の「第一部の3」である。

## 目 次

は し が き

- 第一部 1 CONTACTS 5 の内容の概要
  - 2 CONTACTS 6 ~10からの抜粋
  - 3 文法的説明その他について
  - 第二部 1 コミュニケーション・アプローチとは
  - 2 日本の英語教育 vs ドイツの英語教育
  - 3 エリート選抜のための英語教育 vs 民主主義のための英語教育
- ま と め

## 第 一 部

### 3 文法的説明その他について

「はしがき」で既に述べたように, 6冊のテキストはコミュニケーションの場の設定という観点から構成されており, 文法的説明はどちらかと言えば断片的である。最初の2冊 (CONTACTS 5, 6) においては, **grammar bird** と称する欄がときどき登場しそのつど簡単な文法的説明が与えられるという構成である。その幾つかを見てみよう。

<grammar bird (CONTACTS 5, p. 24)>

Es wäre möglich, einfach so anzubieten : Cheese ?

(単に Cheese? と行って差し出すこともできるが)

Aber es klingt besser, ein bißchen höflicher (gegenüber einem Gast),

wenn man anbietet : Some cheese ?

(Some cheese? と行って出した方が聞こえが良いし, お客さんに対して丁寧である。)

Genauso kannst du fragen :

Have you brothers or sisters ?

(まったく同様に, Have you brothers or sisters? と聞くこともできるが)

Es klingt besser :

Have you any brothers or sisters ?

(Have you any brothers or sisters? の方が聞こえが良い。)

Anbieten und antworten : some

(物を提供するときや返答のときは, some)

Fragen (und nichts wissen) : any

((不明のことを) 質問するときには, any)

日本の教科書では, some は肯定文に用い, any は疑問文や否定文や条件文で用いられる, といったような統語構造に絡めた説明が多いが, ここでは, some は人に何かを提供する時に丁寧さをあらわす表現として, any は質問する時に好印象を与える表現として説明している。文法的説明といっても, 文構造についての基礎的な説明といった段階を飛び越して, コミュニカティブな側面から, いきなり発話の丁寧さのレベルの問題に入っている。なお, ドイツ語には, some と any の区別に対応する語彙構造は存しない<sup>1)</sup>。

<grammar bird (p. 25)>

<b>he</b>	<b>she</b>
for <b>him</b>	for <b>her</b>
<b>his</b> book	<b>her</b> book

ドイツ語の人称代名詞 (3人称・単数)

1格 (N.)	er	sie
2格 (G.)	seiner	ihrer
3格 (D.)	ihm	ihr
4格 (A.)	ihn	sie

人称代名詞 (3人称・単数) he と she が, 主格・目的格・所有格の順に並べてある。文法的な説明は無く, 文法用語は見当たらない。参考に, ドイツ語の人称代名詞のカテゴリーを上記右側に掲げたが, その2格 (所有格) は, 「彼 (女) の……」と所有者を表わすためには用いられない<sup>2)</sup>。所有者は, 所有代名詞によって表される。なお, ドイツ語の所有代名詞は形容詞的 (付加語的), 名詞的, 述語的の各用法があり, 性・数・格によって変化する。

人称代名詞や所有代名詞のカテゴリーは, ドイツ語と英語とでは必ずしもうまく対応しない<sup>3)</sup>。初歩の段階で, 両者を並べて比較検討したりすると, かえって頭が混乱するであろう。ここでは単に, he, him, his (she, her, her) を, ~, for ~, ~ book という最小限のコンテキストの中で示してある訳であるが, なまはんかな説明をするより, そのほうが単純明快であろう。

## &lt;grammar bird (p. 28)&gt;

## Persons

<b>I</b>	<b>mine</b>	= <b>my</b> book	I am	= I'm
<b>you</b>	<b>yours</b>	= <b>your</b> book	you are	= you're
<b>he</b>	<b>his</b>	= <b>his</b> book	he is	= he's
<b>she</b>	<b>hers</b>	= <b>her</b> book	she is	= she's

## Objects

a book	= it
a spoon	= it
my bicycle	= it
the car over there	= it

**grammar bird** (p.25)で導入された his book と her book が、それぞれ his や hers と書き表わされることを示し、同時に、mine と yours を導入している。所有代名詞の説明を行っているのだが、先程と同様、文法的説明は無く、所有代名詞に相当する文法用語は見当たらない<sup>9)</sup>。

他に、be 動詞の縮約形、そして、物を表わす代名詞 it が掲げてある。it は、所有代名詞ではなく、人称代名詞の系列に属するものであるから、**grammar bird** (p. 28)より **grammar bird** (p. 25)で導入したほうが文法カテゴリーの整合性に適うわけであるが、そのようなことは意識していないようである。

## &lt;grammar bird (p. 124)&gt;

Diese Sache ist gar nicht so einfach.

Für Deutsche jedenfalls.

Einfache Regel :

Frage : Have you got **any** sweets with you?

I need some bread. Have you got **any**?

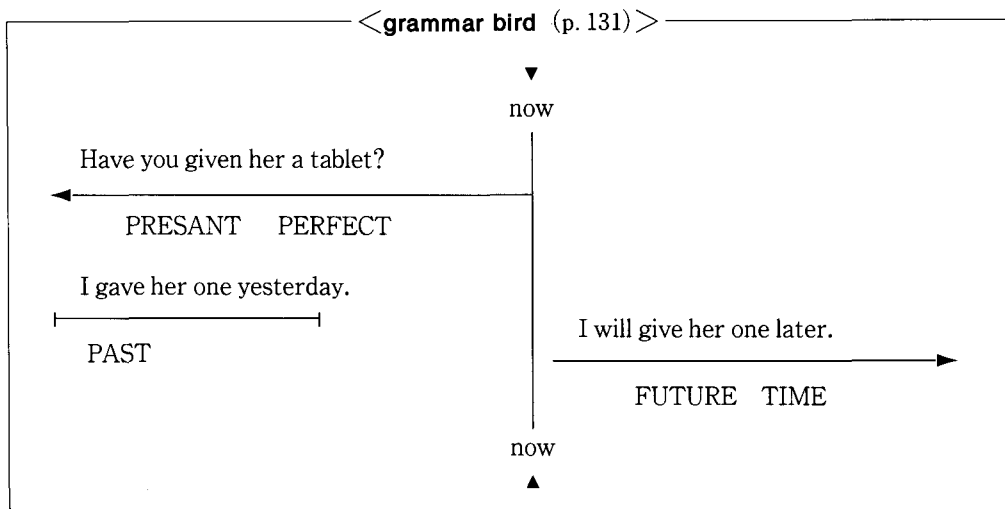
Verneinung : Sorry. I haven't got **any** (bread).

Feststellen : Oh, you got **some** tablets. Good.

Anbieten : Do you want **some** orange juice?

最初に独文で、some と any の用法は、ドイツ人にとって余り容易なことではないが、一応ごく簡単なルールを示すことわっている。some と any の区別は、単に意味的なものではなく、統語構造にも絡んでいる。しかるに、すでに **grammar bird** (p. 24) で触れたように、ドイツ語におい

では、英語の some と any に対応する語彙構造は存しない。したがって、ここでは、some と any の用法を統語構造のカテゴリーの中で説明しないで、意味の立場すなわちコミュニケーションの場という観点から説明している。すなわち、Frage (質問), Verneinung (否定), Feststellen (断言), Anbieten (提供) という4つの場において、some と any がどのように用いられるかを、例文で示している。



ドイツ語において現在完了形と過去形の区別は英語ほど厳密ではない。いずれの形を選ぶかは、意味よりもむしろ文のリズムがその決定の要素となっていると言える。英語の場合、おおまかに言えば、現在となんらかの関係のある時には現在完了形を、現在と切り離された場合には過去形を用いるが、上図はそれを示したものである。

ドイツ語と英語の未来形の構造は、いずれも助動詞を用いるという点で類似している。ただ、未来の助動詞のもとの意味がそれぞれ異なるので、そのぶん未来形の各用法のニュアンスに微妙な違いが生ずると思われる<sup>5)</sup>。上図で未来形は、now (現在) を軸として、過去形とではなく現在完了形とシメトリカルに図示されているが、未来形とは、現在との関係を保ちながら未来の事を表わす時制だと言える。なおドイツ語では、英語であれば現在完了形や未来形で表す場合に、完了や未来を示す副詞 (句) を用いることによって、現在形で表現することが多い<sup>6)</sup>。

<grammar bird (p. 140)>

**Note : - of -**

Objects :	a cup of tea	the front of a house
	a packet of sweets	the back of a house
	a glass of lemonade	the wheels of a bicycle
	a bottle of cola	the leg of a table

Books are made of paper.  
 Tables are made of wood.  
 Often tables are made of iron.  
 Pullovers are made of wool or cotton.

Persons: the brother of my father: my father's brother  
 the car of our teacher: our teacher's car

最も多様な意味をもつ前置詞である of の用法を分類して例示している。(of にあたるドイツ語の前置詞は von であるが両者の用法はかなり異なる。) ドイツ語の前置詞は、それが支配する名詞の格によって4種類(2格支配, 3格支配, 4格支配, 3・4格支配)に分類される。また、定冠詞と融合して形を変える。英語にはその様なことが無いから、そのぶん簡単である。

<grammar bird (CONTACTS 6, p. 31)>

<i>positive</i>	<i>negative</i>
I speak English.	I <b>don't</b> speak French.
	I <b>do not</b> speak French.
He goes to the disco a lot.	He <b>doesn't</b> go to the disco.
She will get a lot of presents.	She <b>won't</b> invite me to her party.
	She <b>will not</b> invite me.

英語の否定文についてである。ドイツ語との相違点は、否定辞 not の置かれる場所がドイツ語の否定辞 nicht とは異なる点と、助動詞の無い文では do を持ち出してくる点である。not の位置に関して言えば、英語の場合、上図を見れば解る様に、not は常に述部の中心部に位置し、ドイツ語の nicht の様に文末や文末近くに置かれることはない<sup>7)</sup>。

<grammar bird (p. 46)>

*The English word order is*

	SUBJECT	VERB	OBJECT
	Who	called	the doctor?
Why did	he	call	the doctor?

Never put a full verb before the subject!

英語では、ドイツ語の様に full verb (本動詞) と主語を倒置させて疑問文を作るということが

ない。これは英語とドイツ語の語順の大きな相違点の一つである。

<grammar bird (p. 61)>

*Adjectives are words that tell you what nouns  
(persons or things) are like :*

neat    nice    quiet    beautiful    perfect

**nouns**

She has a ADJECTIVE face.  
smile.  
voice.  
pronunciation.

**nouns**

Her face is ADJECTIVE  
voice  
pronunciation

---

*Adjectives can take a -ly ending. Then they are **adverbs**.  
They tell you how a verb action is done.*

neatly    nicely    quietly    beautifully    perfectly

---

My friends writes ADVERB  
speaks  
sings

形容詞と副詞についてである。最初に、形容詞に付加的用法と叙述的用法があることを示しているが、この点は英語もドイツ語も同じである。ただ付加的用法の場合、ドイツ語の形容詞には複雑な語形変化があるが<sup>8)</sup>、英語の形容詞は比較級と最上級の変化があるだけで極めて簡単である。

上図の後半は英語の副詞についての説明である。形容詞に *ly* を付ければ副詞になり、それは動詞の動作の様子を語るものであると述べている。ドイツ語では、形容詞をそのまま語形を変えないで副詞に用いる。ドイツ語の場合、形容詞と副詞の語形上の区別が無い。上図で名詞を修飾するものと動詞を修飾するものが異なった語形をもつという解りきった様なことをくどくどと説明しているのはそのためである。

<grammar bird (p. 78)>

WHO    is a question word for persons.

Ask: Who | is ...?  
 | speaks ...?  
 | has ...?  
 | wants ...?  
 | writes with ...?

**WHOSE** is another question word for persons.

It often stands before a noun. The answer

begins with **My ... or Our ...** Or : **Mine.**

And : **Ours.**

疑問代名詞の文法体系は、英語もドイツ語も良く似ているので、ドイツ人にとって、Who と whose の用法を把握するのに文法的説明は殆ど不必要に思われる。ここでは、ただ「WHOは人についての疑問の言葉である。WHOSE は人についてのもう一つの疑問の言葉であり、しばしば名詞の前に置かれ、これに対する返答は、MY ... や Our ..., あるいは Mine や Ours で始まる。」と説明している。

<grammar bird (p. 85)>

**WHO** is a question word (interrogative).

**WHO** is also a relative pronoun.

**WHO** stands for persons. In questions for the person you are asking something about. In relative clauses (**WHO** clauses) it refers to the person the clause is about.

**clause** : Nebensatz

**interrogative** : Fragewort

**pronoun** : Fürwort / Pronomen

**grammar bird** (p. 78) を受けて、Who が疑問代名詞だけでなく関係代名詞としても用いられることについて説明している。三つの文法用語（「節」「疑問詞」「代名詞」）にドイツ語訳を付けている。

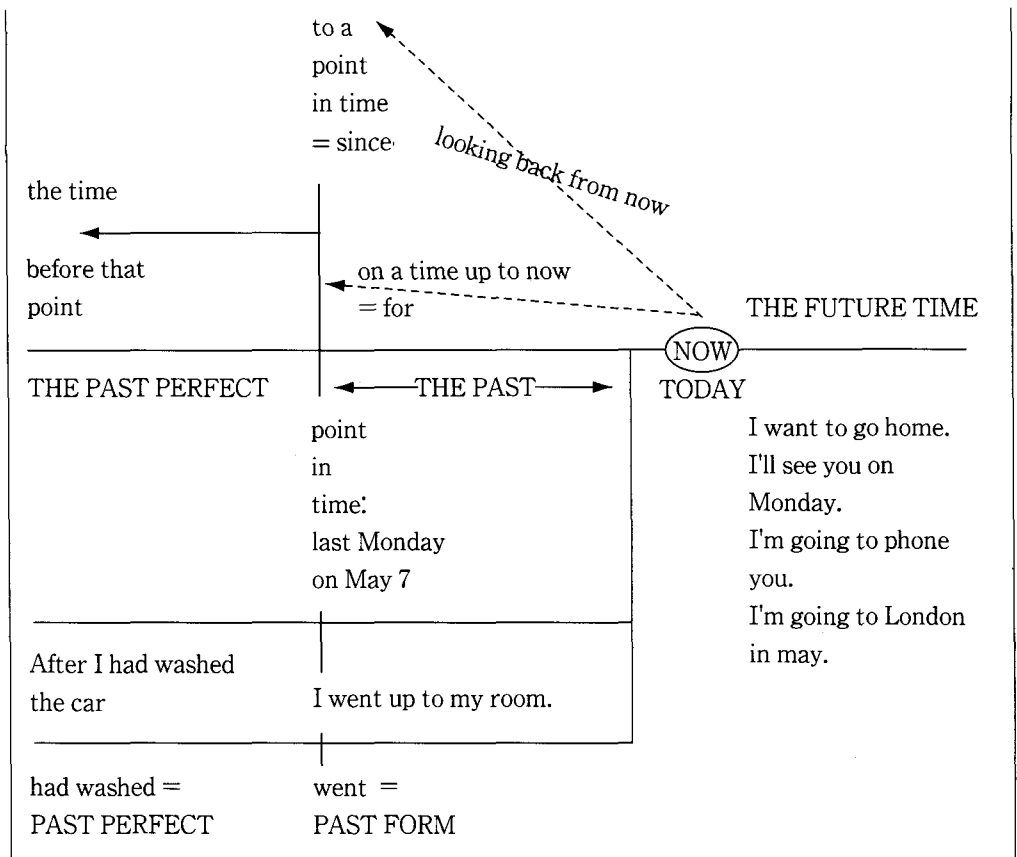
<grammar bird (p. 100)>

I have been here **since** last Monday.

(point in time)

I have lived here **for** two months.

(time up to now)



二つの現在完了形の文 (I have been here **since** last Monday. と I have lived here **for** two months.) が掲げている。「先週の月曜から」とか「(現在まで) 二か月間」というように現在完了形とは、現在から point in time (過去のある時点) をふりかえるという時制である。この point in time から、さらに the time before that point を考えたものが過去完了形である。ドイツ語の過去完了形も概ねこれと同じであるが<sup>9)</sup>、英語であれば過去完了にする場合にドイツ語では過去形を用いることがある<sup>10)</sup>。また、ドイツ語では、正確な時制の表現をするためではなくて、強調したり口調を良くするために過去完了形を用いることもある<sup>11)</sup>。

上図右側には未来を表わす文が幾つか掲げられている。I want to ~ はふつう未来形とは言わないが、内容的には未来を表わす表現である。ドイツ語には英語の進行形に相当する文法構造が存在せず、従って be going to ~ (近接未来) も存在しない。英語の未来時制の表現はドイツ語より複雑で厳密だと言える。英語であれば未来時制の文法カテゴリーの中で表現され得るものが、ドイツ語では適当な副詞 (句) を使ってしか表現できない場合がある。

以上、**grammar bird** の欄を見てきたが、次に、**grammar bird** の欄以外で文法事項を扱っている箇所を少し見てみよう。まず次に3つ紹介するのは、いずれも最上級を教えるためのものである。



\* Cassius Clay のせりふを引用 (CONTACTS 6, p. 118)

Cassius Clay said : I'm the GREATEST.

I'm the BEST.

I'm the MOST INTELLIGENT man in the world.

I'm the best looking man.

I'm the best dressed man.

I'm MUHAMMED ALI, the WINNER.

\* 最上級の文をたくさん使ったジョーク (CONTACTS 6, p. 119)

### The biggest

One day Mr Bighead came home from a holiday. He told his neighbour : "We had the most wonderful weather. And there was the most fantastic beach. We got the finest food." "Did you?" his neighbour said. "And we had the softest beds. We got the sweetest wine. Just wonderful." "Was it?" the neighbour said. "Oh yes, and we saw the biggest lobsters. I tell you, the most fantastic lobsters. Bigger than cats." "By the way," said the neighbour, "in our factory we make pots, bigger than oil tanks." "Bigger than oil tanks?" "Yes, of course. To cook your lobsters in."

\* スーパー等での店内放送にからめて最上級を学ばせる。(CONTACTS 7, p. 33)

Have you ever listened to a loudspeaker in a big store?

Here are some announcements :

In our supermarket! The most delicious fruits!

In our Children's Department! The warmest winter coats!

The finest wines! On the first floor!

Today only! In our Fruit Department! The freshest peaches!

Today only! In our Ladies' Department! The most beautiful skirts!

次に、ドイツ語と英語を平行に並べて構造を比較している箇所を見る。下記の例は、関係代名詞 who, which の用法を理解させるためのものである。(CONTACT 7, p. 82)

A driver is a **man who** drives cars.

Ein Fahrer ist ein **Mann, der** Wagen fährt.

A repairman fixes **machines which** are broken.  
 Ein Mechaniker repariert **Maschinen, die** kaputt sind.

There are still **dogs which** hate postmen.  
 Es gibt immer noch **Hunde, die** Briefträger hassen.

**Who** und **which** sind Relativpronomen (bezügliche Fürwörter)  
**Who** steht bei Personen, **which** bei Sachen und Tieren.

3つの英文が、それぞれに対応する独文と共に掲げてある。これは翻訳によって意味を解説するという目的ではなく、むしろ二言語を比較対照することによって文法構造を理解させるためである。最後にドイツ語で、who, which は関係代名詞で、who は人に、which は物と動物に用いられると解説してある<sup>12)</sup>。

ドイツ語と英語をパラレルに並べることによって英語の統語構造の認識に役立てるというのは、同系統の言語であるからできることであり、日本語では不可能なことであろう。さらに例を見よう。

\* 再帰代名詞を説明するためのもの (CONTACTS 7, p. 118)

Paul can see **me** in the mirror. (Paul kann **mich** im Spiegel sehen.)  
 He can see **himself** in the mirror. (Er kann **sich** im Spiegel sehen.)

上記の文中で、mich は人称代名詞で、sich は再帰代名詞である。ドイツ語の場合、人称代名詞と再帰代名詞のカテゴリーは重複している。すなわち、再帰代名詞の三人称と敬称 (Sie) には単数複数の三格四格とも sich を用いるが、その他 (一人称・二人称) は人称代名詞の目的格と同形である。英語の再帰代名詞は人称代名詞の所有格 (三人称の場合は目的格) に -self (selves) を付けて作る。その様な英語の再帰代名詞の用例が下記のように示してある。単数の全てを網羅し、下にドイツ語で「主語と目的語が同一人物に結び付く」と説明している。(CONTACTS 7, p. 119)

I can see **myself** in the mirror. (Ich kann **mich** im Spiegel sehen.)  
 You can see **yourself** in the mirror. (Du kannst **dich** im Spiegel sehen.)  
 Paul can see **himself** in the mirror. (Paul kann **sich** im Spiegel sehen.)  
 Miriam can see **herself** in the mirror. (Miriam kann **sich** im Spiegel sehen.)

**Beachte :**

**Subjekt** und **Objekt** beziehen sich auf dieselbe Person :

I ... myself, you ... yourself, he ... himself, usw.

\* 比較文を説明するためのもの (CONTACTS 8, p. 16)

gleich

**as ... as** (ebenso ... wie)

Peter is **as** tall **as** Betty. (Peter ist **ebenso** groß **wie** Betty.)

Betty is **as** tall **as** Peter. (Betty ist **ebenso** groß **wie** Peter.)

ungleich

**not as ... as** (nicht so ... wie)

Jane is **not as** tall **as** Dick. (Jane ist **nicht so** groß **wie** Dick.)

Dick is **not as** short **as** Jane. (Dick ist **nicht so** klein **wie** Jane.)

... **er**

**more ... than**

Dick is **taller than** Jane. (Dick ist **größer als** Jane.)

Jane is **shorter than** Dick. (Jane ist **kleiner als** Dick.)

Chinese is **more difficult than** English. (Chinesisch ist **schwieriger als** Englisch.)

Jeans are **more expensive than** T-shirts. (Jeans sind **teurer als** T-shirts.)

英語とドイツ語の比較の表現は、上記の各文を見ても解るように、統語的にも旨く対応している。大きな違いは、英語に見られる、二音節以上の形容詞はその前に more をつけて比較級を作るという方式が、ドイツ語にはないという点である<sup>13)</sup>。

注

- 1) 例えば, jemand は場合によって somebody または anybody と英訳され, etwas は something または anything と英訳される。ex. Fragen Sie mich, wenn Sie etwas nicht verstehen. = Ask me if you do not understand anything. / Man muß etwas sein, um etwas zu machen. = One must be something in order to do something. =何かをしようとする人はひとかどの者でなければならぬ。(三好助三郎『独英対照文法』郁文堂, 237ページ)
- 2) ドイツ語の人称代名詞の二格は, 現代英語では前置詞 of で表される。(ex. Ich gedachte seiner. = I thought of him.) なお, 三格は英語では to で表されるが, 前置詞を用いない場合もある。(I gave the book to him. / I gave him the book.)
- 3) 例えば, my は英文法では人称代名詞の所有格であるが, ドイツ語文法のカテゴリーに従えば, 付加語的用法の所有代名詞として分類されるであろう。
- 4) 注3) で述べたように, 英文法では my, your, his, her は人称代名詞で, mine, yours, his, hers は所有代名詞であるが, ドイツ語文法に従うならば, 両者とも所有代名詞で, 前者は付加的用法, 後者は名詞のおよび述語的用法と分類されるであろう。
- 5) ドイツ語の未来の助動詞 werden は, その本来の意味が「なる (=become)」であり, 英語の will (意志) や

shall (義務) とは同じ未来でもそのニュアンスが異なる。(ドイツ語で、will や shall にあたる語は、wollen と sollen であり、歴史的にはこれらが未来の助動詞として用いられたこともあるが、現在は方言に残っているだけである。) さらに werden には、本動詞としての用法 (ex. Ich werde Arzt. = 私は医者になる) があり、(動作) 受動態の助動詞としても用いられるので、英語の未来形との違いは大きい。

- 6) ex. Ich suche sie schon eine halbe Stunde. = I have been looking for her for half an hour. / In einer Stunde sind sie hier. = They will be here in an hour.
- 7) cf. I do not speak French. = Ich spreche Französisch nicht. / She will not invite me. = Sie wird mich nicht einladen.
- 8) ドイツ語の形容詞は、性・数・格に応じて16通りに語形変化する。さらに、単独で名詞を修飾するのか、定冠詞(類) + 形容詞 + 名詞のパターンか、不定冠詞(類) + 形容詞 + 名詞のパターンかによって異なった変化をするので、結局、 $16 \times 3 = 48$ 通りにも変化する。
- 9) 過去のある時点から、それ以前の事を述べるといふその意味内容が同じであるだけでなく、助動詞の haben (または sein) の過去形と過去分詞を組み合わせて作るという点も同じである。ex. Sie hatte ihr Haus schon verkauft, als er sie kennenlernte. = She had already sold her house when he met her.
- 10) grammar bird (CONTACTS 5, p. 131) の解説で述べたように、ドイツ語の現在(継続的現在)が英語の現在完了を表わすことがあるが、過去のある時点まで続いた動作や状態を表わすとき、英語では過去完了形を用いるが、ドイツ語では過去形を用いる。ex. Er wartete schon eine Stunde auf mich, als ich kam. = He had been waiting an hour for me when I came. / Er kannte sie schon seit einigen Jahren. = He had known her for some years.
- 11) ex. Das komponierte er ebenfalls, und so hatte er im letzten Satz der Zweiten Symphonie die Lösung der Fragen gefunden, die ihn quälten. = He composed this too, and so he found the solution of the question in the last movement of the second symphony, which tormented him.
- 12) ドイツ語の関係代名詞には、指示代名詞から転用された der (指示代名詞の名詞的变化と同じ変化をする) と、疑問代名詞から転用された welcher, wer, was (疑問代名詞と同様で定冠詞と同形変化をする) とがある。der と welcher (定関係代名詞) は先行詞(人でも事物でもよい)をとる。wer と was (不定関係代名詞) は先行詞をとらない。下記の図表は、英語とドイツ語の関係代名詞を、先行詞をとるか否か、人に用いるか事物に用いるか、という二つの観点からまとめたものである。

先行詞をとる	先行詞をとらない	
der	人	wer
welcher	物	was

先行詞をとる			先行詞をとらない	
人	who	that	人	what
物	which		物	

- 13) ドイツ語においても、同一事物のもつ二つの性質を比較する場合、more による比較に相当する比較級構文を mehr を用いることによって形成する。

(1995年10月4日受理)